

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空力学 I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			20	20	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	飛行機が離陸から着陸までの間に翼や胴体、プロペラなどに作用する力や、飛行機の運動および性能について理解している
使用教科書・副教材等	空を飛ぶはなし
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①空を飛ぶための力	4 1) 鳥と飛行機の翼の違いや共通点がわかる	①～③
			5 1) 空を飛ぶときの4つの力がわかる	
		②空気の力学	6 1) 標準大気がわかる 2) ベルヌーイの方程式がわかる	
			7 1) 空中で方向を変える方法がわかる 2) 空を飛ぶ方向と翼の関係がわかる	
		③翼の役割	8	
	後 期	④自由に飛べるしくみ	10 1) 操縦のしくみがわかる	④～⑤
			11 1) フラップについてわかる	
			12 1) 舵面を動かすしくみがわかる	
		⑤飛行機の速度	1 1) 対地速度と大気速度の違いがわかる 2) 飛行速度を測るしくみがわかる	
			2 1) 音速についてわかる 2) 音速と飛行速度の関係がわかる	
			3	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
発動機 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機で使用される(ピストン・エンジン)の性能及び構造内容を理解する
使用教科書・副教材等	・航空工学 ・空飛ぶはなし
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①航空エンジンの分類と発達	4	1)航空エンジンの分類を理解する	①～⑨
		②ピストン・エンジンの概念		2)ピストン・エンジンの概念を理解する	
		③エンジンの熱力学	5	1)エンジンの熱力学を理解する	
		④エンジンの出力及び効率		2)ピストン・エンジンの出力及び効率を理解する	
		⑤エンジンの構造	6	1)ピストン・エンジンの内部の構造を理解する	
		⑥燃料の燃焼	7	1)ガソリンの燃焼及びデトネーションについて理解する	
	後 期	⑦過給装置		2)過給機の目的及び型式を理解する。	⑩～⑮
		⑧燃料制御系統	8	1)燃料制御装置の内容を理解する	
		⑨点火系統		2)ピストン・エンジンの点火系統を理解する	
	学 年 期	⑩滑油と潤滑系統	10	1)ピストン・エンジンのと潤滑系統を理解する	
		⑪冷却系統		2)ピストン・エンジンの冷却系統を理解する	
		⑫航空燃料と燃料系統	11	1)航空燃料(ガソリン)の具備条件を理解する	
		⑬始動装置	12	1)ピストン・エンジンの始動条件を理解する	
		⑭運用と整備	1	1)ピストン・エンジンの運用と整備に関する事を理解する	
		⑮ピストン・エンジンのまとめ	2	1)整備士試験問題集活用してピストン・エンジンに関する問題を理解する	
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
機体構造 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の機体及び航空機のシステムの基礎的な構造を理解している
使用教科書・副教材等	・飛行機構造 ・航空機の基本技術 ・航空工学入門 ・空を飛ぶはなし
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①機体構造	4 1) 飛行機の主な構成部分を理解する	①～②
			5 1) 構造にかかる荷重と応力を理解する 2) 構造部分の基本的な構造材料を理解する	
			6 1) 構造の種類(胴体、翼)構造を理解する 2) 構造の種類(尾翼、操縦翼面等)理解する	
		②金属材料	7 1) 航空機に使用される鋼材を理解する 2) アルミ合金の性質等を理解する	
			8 1) マグネシウム合金、チタニウム合金の性質等を理解する	
	後 期	③非金属材料	10 1) 鋼材(炭素鋼、ステンレス鋼)の性質等を理解する 2) 鋼材(耐熱鋼)の性質等を理解する	②～⑥
			11 1) 非金属材料(プラスチック、ゴム)の性質等を理解する 2) 非金属材料(接着剤、塗料等)の性質を理解する	
		④複合材料	12 1) 航空機に使用される複合材料の性質を理解する	
		⑤着陸装置	1 1) 航空機の着陸装置の構造を理解する 2) ホイール、タイヤの構造を理解する	
			2 1) メイン・ギア・ステアリングの構造を理解する 2) 整備士試験問題集を活用してこれまで学習した範囲を復習する	
		⑥機体構造の1年次まとめ	3	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空ナビゲーション I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空気象の基礎を学び、飛行における気象の影響を理解する。
使用教科書・副教材等	図解 パイロットに必要な航空気象
教員実務経験	運航管理者の資格を有して運航管理業務に携わった経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① 気象の基礎	4 1) 大気の構造を理解する	① 試験
			5 2) 温度、気圧(高気圧、低気圧)を理解する	
			6 3) 雲、水蒸気、霧を理解する	
			7 4) 着氷、雷、大気の状態を理解する	
			8 5) エマグラム、風、コリオリの力を理解する	
	後 期	② 気象の基礎(続き) ③ 天気図 ④ 空港の気象 ⑤ 飛行の現場	10 1) 偏西風、乱気流、前線、台風を理解する	②～⑤ 試験
			11 2) 天気図(実況解析図)の概要、衛星画像を理解する	
			12 3) 予想天気図の概要、気象通報式(METAR)を理解する	
			1 4) 気象通報式(TAF)を理解する	
			2 5) ATIS、飛行場警報、IMC・VMCを理解する	
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空法規Ⅰ	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			20	20	実務経験	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空特殊無線技士資格取得 航空無線通信士 法規の内容を理解する
使用教科書・副教材等	①やさしく学ぶ 航空特殊無線技士試験 ②航空無線通信士 合格精選310題 試験問題集
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	【航空特殊無線技士 受験対策】 ① 電波法規		① 試験
		4	1) 電波法の概要、無線局の免許について理解する	
		5	2) 無線設備、無線従事者について理解する	
		6	3) 運用について理解する	
		7	4) 監督について理解する 5) 過去問の実施と解説	
		8		
	後 期	② 国家試験受験 【航空無線通信士 受験対策】 ③ 電波法規		③ 試験
		10	1) 過去問中心に直前対策実施 2) 国家試験を受験する(10月20日)	
		11	3) 無線局の免許、無線設備について理解を深める	
		12	4) 無線従事者、運用について理解を深める	
		1	5) 監督、罰則について理解を深める	
		2	6) 国際法について理解を深める	
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
エアラインオペレーションⅠ	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空整備士、グランドハンドリング及び乗務員、運航管理者などの各職種の業務内容やエアラインのオペレーションについて理解する
使用教科書・副教材等	エアラインオペレーション入門
教員実務経験	エアラインで運航管理者として実務経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① 航空整備業務	4 1) 整備士の業務内容と資格を理解する 2) 航空機整備の種類を理解する	①～③ 試験
		5 3) 航空機及びエンジンの概要を理解する 4) 整備体制を理解する		
		② 運航乗務員業務	6 5) パイロットの業務と資格を理解する 6) 飛行の原理、飛行機の性能を理解する	
		③ 客室乗務員業務	7 7) 客室乗務員の保安業務と機内サービスを理解する 8) 客室乗務員の編成・資格を理解する	
		8 9) 空港の3レターコード・4レターコードを理解する 10) 航空会社の2レターコード・3レターコードを理解する		
	後 期	④ グランドスタッフ業務	10 1) グランドスタッフの仕事を理解する 2) 保安検査とCIQ(税関、出入国審査、検疫)を理解する	④～⑥ 試験
		11 3) グランドハンドリングスタッフの仕事を理解する 4) 地上支援作業に使用する車両・器材を理解する		
		⑤ 運航管理者業務	12 5) 運航管理者の業務を理解する 6) 運航の管理とその組織体制を理解する	
		⑥ 航空輸送の歴史と変遷	1 7) 世界の航空輸送の歴史と変遷を理解する 8) 世界の航空会社とアライアンスを理解する	
		2 9) 日本の航空輸送の歴史と変遷を理解する 10) 空港整備の経緯と現状を理解する		
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本技術 I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機整備作業に必要な基本的な技術を習得する
使用教科書・副教材等	・航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①SI単位	4 1) SI単位の換算方法を理解する	①～⑤
		②リベット	5 1) リベットの型式、材料と特性を理解する	
		③作図知識	6 1) 作図の知識を理解する	
		④成形法	7 1) 成形法、折り曲げのレイアウトの知識を理解する	
		⑤構造修理	8 1) 構造修理の基本原則を理解する	
	後 期	⑥締付法	10 1) ボルト、ナットの種類、取扱方法を理解する 2) トルクレンチを使用してのトルク値の計算方法を理解する	⑥～⑧
			11 1) 安全線の材料と使用方法を理解する 2) コッター・ピンの材料と使用方法を理解する	
		⑦表面処理	12 1) 金属腐食の種類、発生原因について理解する 2) メッキについて理解する	
			1 1) 塗装について理解する 2) 鋼の表面硬化、表面処理について理解する	
		⑧一年次のまとめ	2 1) 1年次学習した項目の整備士試験問題集活用して復習する	
			3	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空燃料	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空燃料、航空機への給油方法について理解するとともに、航空燃料を取り扱う際に必要な危険物取扱者乙種4類を取得する
使用教科書・副教材等	乙4類 危険物取扱者 受験教科書
教員実務経験	危険物取扱者乙種4類を所持し、危険物取扱業務の経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容	月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	①航空燃料の概要	4 1) 航空燃料の種類がわかる 2) 燃料給油方式がわかる	①～⑤
	②物理学と化学の基礎知識	5 1) 熱の移動、物質の状態変化がわかる 2) 酸化・還元反応、有機化合物の性質がわかる	
	③燃焼と消火の知識	6 1) 燃焼の三要素がわかる 2) 消火の仕組みや消火剤の種類がわかる	
	④危険物の性質	7 1) 消防法で定める危険物がわかる 2) 第4類危険物の性質がわかる	
	⑤危険物に関する法令	8 1) 消防法についてわかる	
学 年 後 期	⑥危険物取扱者試験対策	10 1) 危険物の規制に関する政令がわかる 2) 危険物の規制に関する規則がわかる	⑥～⑧
		11 1) 演習問題を繰り返し、出題形式に慣れる	
	⑦航空機への給油	12 1) 給油前の燃料検査方法がわかる 2) 航空機への給油方法がわかる	
	⑧燃料計算	1 1) 燃料計算がわかる 2) 計算後のリミットがわかる	
		2 1) 燃料消費量の概要がわかる	
		3	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空無線 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空特殊無線技士資格取得 航空無線通信士試験科目のうち無線工学及び英語の内容を理解する
使用教科書・副教材等	①やさしく学ぶ 航空特殊無線技士試験 ②航空無線通信士 合格精選310題 試験問題集 ③航空無線通信士 英語 試験問題集
教員実務経験	航空無線通信士の資格を有して無線業務に従事した経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第 一 学 年	前 期	【航空特殊無線技士 受験対策】 ① 無線工学 ② 電気通信術 ③ 英語、英会話(航空通) 試験問題集を解く 英文法の復習	4	1) 無線従事者国家試験について理解する 2) 電波の性質、電気回路、半導体について理解する	① 試験
			5	3) 変調、送信機・受信機について理解する 4) 航空無線通信士英語試験の過去問①を解く	
			6	5) レーダー、航法通信装置、空中線について理解する 6) 航空無線通信士英語試験の過去問①を解く	
			7	7) 電気通信術(送話、受話)を練習する 8) 電波伝搬、電源、測定について理解する	
			8	9) 電気通信術(送話、受話)を練習する 10) 過去問で受験対策を行う	
	後 期	【航空特殊無線技士 受験対策】 ④ プリントによる過去問の学習 【航空無線通信士 受験対策】 ⑤ 無線工学 試験問題集を解く その他過去問を解く ⑥ 英語、英会話 試験問題集を解く その他過去問を解く	10	1) 航空特殊無線技士試験の合格をめざす 2) 国家試験を受験する(10/19予定)	⑤～⑥ 試験
			11	3) 航空無線通信士試験問題の傾向と対策を理解する 電気物理、電気回路、半導体、電子回路、通信方式、 送信機・受信機	
			12	4) 航空無線通信士英語試験問題の傾向と対策を理解する 英語試験問題集 過去問題 ②	
			1		
			2		
	3				

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
英語 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実用英語技能検定準2級を取得するための英語力を身につける
使用教科書・副教材等	わからないをわかるにかえる英検準2級 出る順パス単書き覚えノート
教員実務経験	学習塾にて英語科目を担当

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	50 %	仮評価		%
	小テスト	20 %			%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	①3級重要文法	4 1)現在完了がわかる	①～②
			5 1)不定詞、関係疑問文がわかる	
			6 1)前置詞、関係代名詞がわかる	
		②英検3級対策	7 1)長文読解対策	
			8 1)リスニング対策	
	後 期	③2級重要文法	10 1)仮定法、関係副詞がわかる 2)重要慣用表現がわかる	③～④
		④準2級対策	11 1)問題形式1 文法の穴埋め問題対策	
			12 1)問題形式2 会話文の穴埋め問題	
			1 1)問題形式3 短文理解の問題	
			2 1)問題形式1～3 総まとめ	
			3	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
TOEIC I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	TOEIC TEST Listening & Reading スコア400点以上
使用教科書・副教材等	TOEIC TEST 全パート まるごとスピードマスター 英会話ペラペラビジネス100
教員実務経験	海外事業部門で海外企業との技術導入に係る業務に携わった経験 航空機メーカー等との英語によるコミュニケーションを行った経験

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第 一 学 年	前 期	① TOEIC TEST対策 Part 1～4 リスニング Part 5～7 リーディング	4	1) TOEIC TESTの概要と問題形式を理解する 2) 写真描写問題、応答問題を解く(Part 1) 3) 会話表現のマスター(Lesson 1～2)	①～② 試験
			5	4) 応答問題、会話問題を解く(Part 2～3) 5) 会話表現のマスター(Lesson 3～8)	
		② 英会話の習得 First Contact Light Contact	6	6) 説明文問題、短文穴埋め問題を解く(Part 4～5) 7) 会話表現のマスター(Lesson 9～14)	
			7	8) 長文穴埋め問題、読解問題を解く(Part 6～7) 9) 会話表現のマスター(Lesson 15～22)	
			8	10) 読解問題を解く(Part 7) 11) 会話表現のマスター(Lesson 23～26)	
	後 期	③ ハーフ模擬試験の実施と 解説	10	1) TOEIC TESTのハーフサイズの模擬試験を行う。 2) 模擬試験の解答・解説で理解を深める(Part 1～3) 3) 会話表現のマスター(Lesson 27～32)	①～④ 試験
			11	4) 模擬試験の解答・解説で理解を深める(Part 4～7) 5) 会話表現のマスター(Lesson 33～40)	
		④ 英会話の習得 Light Contact Regular Contact (2年次に引き継ぐ)	12	6) 模擬試験の解答・解説で理解を深める(Part 7) 7) 会話表現のマスター(Lesson 41～42)	
			1	8) TOEIC L&R 過去問を解く 9) 会話表現のマスター(Lesson 43～48)	
			2	10) TOEIC L&R 過去問を解く 11) 会話表現のマスター(Lesson 49～54)	
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本作業Ⅰ	実習		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の整備作業の基礎となる基本作業の技能を習得する
使用教科書・副教材等	・航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	課題・小テスト 50点未満
後期試験	課題・小テスト 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	各章の課題・小テスト成績	80 %	仮評価		%
	実習態度・安全対策	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	①ベーシックマナー ②航空機整備 基本工具 ③機械計測	4 1)整備の心構えを理解する 2)基本工具の名称及び用途を理解する	①～⑥
		④ベンチ作業 1	5 1)ノギスの使用方法を理解する 2)マイクロ・メーターの使用方法を理解する	
		⑤リベット作業	6 1)弓鋸の使用方法を理解する 2)やすりの使用方法を理解する	
		⑥ベンチ作業 2	7 1)リベッティング作業方法を理解する	
			8 1)ドリルの特性及びドリル作業方法を理解する 2)リーマー、ヘリコイルの使用方法を理解する	
	後 期	⑦ベンチ作業 3	10 1)タップ、ダイス作業方法を理解する 2)課題の文鎮制作	⑦～⑨
			11 1)課題の文鎮制作	
		⑧締付法	12 1)ボルト、ナットの用途、使用方法を理解する 2)トルク・レンチの取扱いを理解する	
			1 1)安全線の掛け方の作業方法を理解する 2)コッター・ピンの取付の作業方法を理解する	
		⑨表面処理	2 1)腐食除去作業方法を理解する 2)塗装作業の手順を理解する	
			3	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
コンピュータ基礎	演習		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	IT化社会といわれる現代のビジネス社会や日常生活において、覚えておく と便利なWord・Excelの基本操作を理解します。文書作成から基礎関数など を習得し、様々なビジネスシーンでの活用を目標とします。
使用教科書・副教材等	Word2019 クイックマスター基礎編／Excel2019 クイックマスター基礎編 情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	提出課題の50%未満は追加課題
後期試験	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席80%未満
後期	出席80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	課題評価	70 %	仮評価		%
	月末まとめ課題	20 %			%
	学習への取り組み	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	① オリエンテーション	4	1) オンライン授業やWEB就活等で活用できるメールアドレス作成 2) ホームポジションを理解し、タッチタイピングを实践	月 末 ま と め 課 題
	② Gmailアドレス作成	5	1) ホームポジションを理解し、タッチタイピングを实践 2) Word画面構成を理解し、基本操作を覚える	
	③ PC基本操作	6	1) ホームポジションを理解し、タッチタイピングを实践 2) 文字の入力・編集および文章の編集を理解する	
	④ Word基本操作	7	1) 文書の作成 2) 表を使った文書の作成 3) 文書の印刷(PDF保存・編集)	
	⑤ Word文書作成	8	1) 図形や画像を使った文書の作成 2) 総合学習問題	
	⑥ Word実技演習			
学 年 第 二 期	⑦ Excel基本操作	10	1) Excel画面構成を理解し、基本操作を覚える基本操作 2) データの編集方法を理解する	月 末 ま と め 課 題
	⑧ Excel表・グラフ作成	11	1) 表の編集 2) ブックの印刷(PDF保存・編集) 3) グラフと図形の作成	
	⑨ Excel関数・データベース	12	1) ブックの利用と管理 2) 関数(基本)を覚える	
	⑩ Excel実技演習	1	1) 関数を覚える 2) 情報処理技能検定3級模擬問題	
		2	1) 関数を覚える 2) 情報処理技能検定準2級模擬問題 3) データベース機能の活用方法を習得	
		3	1) 情報処理技能検定(表計算)試験	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職実務 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	辻野 元昭
			40	40	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	【前期】就活以前の事前学習⇒基礎学力試験対策 【後期】企業の採用活動、就職活動を理解させると共に、必要な企業の情報収集方法等から応募関係書類の準備作成
使用教科書・副教材等	【前期】就職試験サポートドリル(実務教育出版) 【後期】これだけは知っておきたい!面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	定期選考の50%未満
後期試験	定期選考の50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期選考	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	自己紹介 (学生情報収集)	4	・学生との距離を詰め、学習や就活への取り組み方などを周知。 個人の能動的意欲を促進させる。	前期試験
		【就職試験サポートドリル】 筆記試験対策 (一般常識を含む)	5	・『就職試験サポートドリル』を使用して基礎学力を学習。 国語(漢字の読み書き)	
			6	数学(計算)	
			7	英語(アルファベット/単語) 社会(政治/経済/地理/歴史) 常識(時事/社会/文化/科学)	
			8	・随時小テストを実施し、学生の習熟具合を確認する。	
	後 期	【面接対策&ビジネスマナー】 面接の重要性と 自己PRの作成 履歴書作成 企業説明会	10	面接対策&ビジネスマナー ・社会人としての基本的なビジネスマナーについて学習する。	後期試験
			11	・面接の大切さを理解させる。 ・実践を想定した面接練習を行う。	
			12	・自己分析の重要性を理解させる。 ・実践を想定した自己PRを作り上げる。	
1			・履歴書の書き方を理解させる。 ・実践を想定した履歴書を作り上げる。		
2			・企業説明会 授業枠を使用して企業を誘致、学内にて説明会を開催。 採用実績のある企業が主体となるが、 業界関係職種なども含めた幅広い情報をレポートに納める。		
3					

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職対策Ⅰ	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	就職筆記試験に必要な知識を身につける。
使用教科書・副教材等	SPI基礎からはじめる問題集
教員実務経験	専門学校にて教員として就職筆記試験対策に関する指導経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第 一 学 年	前 期	①数学の基本 ②SPI非言語	4	1) 四則計算 2) 小数の計算 3) 分数の計算 4) 割合	①～②
			5	1) 損益算がわかる 2) 料金の割引がわかる	
			6	1) 分割払いがわかる 2) 代金の精算がわかる	
			7	1) 速さがわかる 2) 表の読み取りがわかる	
			8	1) 集計表がわかる 2) 推論がわかる	
	後 期	③言語	10	1) 組み合わせがわかる 2) 確率がわかる	②～③
			11	1) 物の流れと比率がわかる 2) 条件と領域がわかる	
			12	1) グラフの領域がわかる 2) 長文の読み取りがわかる	
			1	1) 二語関係がわかる 2) 熟語がわかる	
			2	1) 語の用法がわかる 2) 長文読解がわかる	
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	年単位時間	前期・後期	学 科	航空ビジネス科
企業研修	実習		30	学 年	一年次
				教員	比嘉 翼

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、専攻分野の実務に必要な知識、技術及び技能の修得を目的とする
---------	---

2 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	研修成果(報告書)	50 %
	研修活動への取り組み	50 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	①各専攻分野において学校及び企業との協議の上で決定する。	4	企業研修において研修学生が専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を修得するための職業教育及び指導等を行う。	①
		5		
		6		
		7		
		8		
		10		
		11		
		12		
		1		
		2		
		3		
前 期				

6 特記事項